

オムロン株式会社
平成 24 年(2012 年)3 月期 第 2 四半期決算
投資家様向け説明会 質疑応答
(2011 年 10 月 28 日、東京)

- Q1: 業績予想のレンジ感について教えて欲しい。下ブレの場合の打ち手(経費の抑えなど)はあるのか？
- A1: 売上のレンジ感としては±50億円と見ている。前提の中で一番振れの大きいのはIABの業績で、今回の見通しは2Qの状況が下期も続くを見た。下ブレした場合は経費コントロール等行うが、逆風はチャンスでもあるので前向きに捉えて行きたい。
- Q2: IABの受注の方向性について感触を教えて欲しい。
- A2: 売上は2Qの状況から横ばい。受注も大きく改善するとは見ていない。ただし、2Qの受注では震災の仮需の反動もあったので多少は改善する。
- Q3: 下期の利益率でEMCが改善・HCBが悪化する理由は？
- A3: EMCは素材価格の安定やコストダウン効果などにより改善する。HCBは新興国中心に積極的な戦略投資を実行するため悪化する。
- Q4: 最注力の中国エリアの収益率を上げる取組みはどのようにするのか？
- A4: 中期的に最注力が中国のIABビジネス。取組みは商品・チャネル力の強化による顧客への対応。これを次の10年では最重要課題として取り組んでいる。
- Q5: 成長エリアとしての中国の人材育成・コンプライアンス対策はどのように考えているのか？
- A5: ご指摘の項目も最重要項目だと考えている。短期的には営業力・SE力の強化、中期的にはマネジメント人財強化など。コンプライアンスは監査を含む本社機能を各エリアに配置しており、グローバルに内部統制の仕組みを強くしていく。
- Q6: IAB・国内の取組み状況は？また、国内の売上が業界平均から下回っているように見えるがシェア低下等あるのか？
- A6: 国内のIABは引続き最注力して強化する。上期は震災後のもどりが円高や電力問題等で顧客の設備投資抑制もあり期待通りではなかった。しかしながら、NECAのシェアも40%程度で推移しており下回っている認識はない。

- Q7: 戦略投資の部門別、テーマ別の内訳を教えてください。
- A7: 詳細はお伝えできない。VG2020の施策に沿ってIA強化・新興国拡大などへの施策を実行している。一例としてはEMCの上海工場の生産力増強やグローバルスタンダード商品の開発、高速・高精度のPLC開発、新興国でのチャンネル開拓、ブランド戦略など。
- Q8: インド・ブラジルの売上高はどの程度あるのか？
- A8: 詳細は開示できないが売上額としてはそんなに大きくない。今は投資をしている段階。
- Q9: IAB中国の足元状況について聞きたい。業種別の状況や代理店の在庫等の状況など。
- A9: 1Qは仮需もあり大きく伸びたが2Qはその反動で減少した。総じて上期は伸びている。業種別では政府系インフラなどが堅調でチャンネルの在庫は縮小している。
- Q10: タイの洪水被害でのプラス面はないのか？
- A10: あるかもしれないが、現時点では何とも言えない。
- Q11: 「その他」セグメントの事業の状況、2Q売上実績の内訳は？
- A11: 環境事業はパワコンが順調にきている。マイクロデバイス(MD)はMEMSマイク等今後注力する。売上実績は環境・・・24億円、バックライト・・・181億円、マイクロデバイス・・・11億円、電子機器・・・46億円。
- Q12: 中期のマイルストーン営業利益率13%について達成の確度はどう見ているのか？
- A12: VGの公表後、為替や景況感が激変しているが、中期のマイルストーンについては基本的な施策や方向感に変更するつもりはない。ただし目標についてはもう少し柔軟性を持たせてローリングしていくことを考えている。
- Q13: 事業のポートフォリオは中長期に変更するのか？
- A13: ビジネスカンパニーレベルでの変更はない。各事業セグメント別に中長期の目標を設定しており、それをやりきることを考えている。

以上